

講義名	中国語講読			授業形態	
担当教員	森 宏子	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

日本人が中国語を学ぶ上でのメリットはなんといっても漢字が分かること。そのため、私たち日本人にとって、中国語の講読は学びやすく、初級者でもけっこうボリュームのある文章が読めるようになりませう。この授業で取り組む講読文は中国の現代事情に関する内容です。講読を通して、中国の文化や中国人の人たちの思考についても理解を深めましょう。

到達目標

中国語検定試験のレベルを目安とすれば、検定試験4級～3級の講読文を読めるよう目指します。

提出課題

必要に応じて課題提出を求めることがあります。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出物、中間試験は返却し、講評を行います。

評価の基準

次の点を総合的に判断します
 平常点（授業への取り組み） 50％
 中間試験と期末試験 50％

履修にあたっての注意・助言他

すでに「中国語A」、「中国語B」などで中国語の学習経験を有し、中国語の基礎がある人を対象としています。中国語ビギナー向けの授業ではありませんので注意してください。中国語から日本語への翻訳作業が中心になりますので、特に留学生の人はそのことを承知した上で受講してください。

教科書

・教材はプリントを配布します。

参考図書

その他

毎回ワークシートを配布します

授業計画

1. 授業案内、中国語レベル計測
2. 大学生の週末
3. 飲食習慣
4. 北京的交通
5. 対数学的嗜好
6. 大学生の打工現状
7. 学生生活の好处
8. 対价还价
9. 送礼的研究
10. 中国式結婚
11. 双职工家庭
12. 中国人の称呼
13. 理想職業
14. 日本語
15. 中国語話

上に示した授業計画は、『知っておきたい中国事情』（白水社）を使用した場合の一例です。授業内容は、受講生の中国語力に合わせて適宜変更します。学期半ばに中間試験を実施します

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 【授業前】
 次の授業で学ぶ講義に、目を通しておいください。分かったところ、分からないところを事前に把握しておいてください
 知らない単語を調べ
 テキスト付属のCDを聞いて、ピンインの確認をし、音読する
 （以上、2時間程度）
- 【授業後】
 授業で学習した講義を、少し時間をおいて再度読み返し、なぜそういう日本語になるのか、中国語の構造（文法）を理解しましょう
 宿題の課題文に取り組む
 （以上、2時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、法学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成業の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
